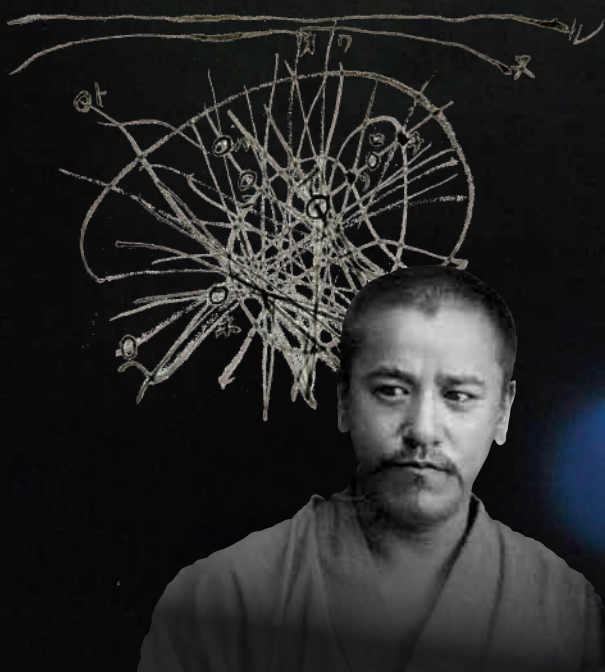


## 生誕150周年、南方熊楠再考



### 南方熊楠翁生誕150周年記念 第11回南方熊楠ゼミナール

#### ●基調講演

「一個の人間が宇宙全体を  
知ることはできるか？」

講師：池澤 夏樹氏 (詩人・作家)

#### ●パネルディスカッション

「南方熊楠は研究者か？」

— 科学者技術者展からの11年を振り返る —

#### ●パネリスト

細 矢 剛 (国立科学博物館 植物研究部 菌類・藻類研究グループ長)

安田 忠典 (関西大学 人間健康学部 准教授)

平川恵実子 (四国大学 非常勤講師)

#### ●コメンテーター

萩原 博光 (国立科学博物館 名誉研究員)

#### ●コーディネーター

田村 義也 (成城大学 非常勤講師)

#### ●総合司会

岩 崎 仁 (京都工芸繊維大学 環境科学センター 准教授)

■日 時：平成30年1月27日(土)  
14:00~16:00 (終了後展示観覧)

■会 場：国立科学博物館 日本館2階講堂  
東京都台東区上野公園7-20

■参加費：無 料 定員120名 (対象：高校生以上)  
但し、国立科学博物館の入館料620円(高校生  
以下、65歳以上は無料)が必要です。

※申込方法：南方熊楠ゼミナール実行委員会まで  
電話(0739-26-9909)でお申込みください。

※申込期間：平成30年1月6日(土)9時~1月20日(土)17時  
(定員になり次第締め切ります。)

●お問い合わせ・お申し込み：南方熊楠ゼミナール実行委員会事務局 TEL.0739-26-9909  
〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 南方熊楠顕彰館内

主催：南方熊楠ゼミナール実行委員会  
(公財)南方熊楠記念館 <http://www.minakatakumagusu-kinenkan.jp>  
南方熊楠顕彰会 <http://www.minakata.org>  
国立科学博物館 <http://www.kahaku.go.jp/>  
協賛：紀南文化財研究会・南紀生物同好会・田辺市熊野ツーリズムビューロー  
後援：和歌山県・田辺市・白浜町

# 南方熊楠翁生誕150周年記念 第11回 南方熊楠ゼミナール

南方熊楠は、明治、大正、昭和初期という時代の中で実に幅広い業績を数多く残し、民俗学や比較説話学等の分野における近代日本の先駆者的存在であると同時に植物学、特に「隠花植物」と呼ばれていた菌類・変形菌類・藻類等の近代日本における初期の代表的な研究者です。

南方熊楠の頭脳ともいえるべき、田辺市中屋敷町の旧南方邸に残された資料は、隠花植物の標本約25,000点が国立科学博物館植物研究部に、その他の資料は、南方熊楠記念館(公益財団法人、白浜町)と南方熊楠顕彰館(田辺市)に分かれて保存されています。この十数年の間、『南方熊楠記念館蔵品目録』(1998年)と、『南方熊楠邸蔵書目録』(2004年)および『南方熊楠邸資料目録』(2005年)が相次いで編纂され、ようやく熊楠資料の全体像をうかがうことができるようになりました。そして、一連の目録編纂のために行われた資料調査の過程で、たくさんの新事実が明らかになり、これらの発見によって、最近まで半ば伝説的に語られて来た熊楠の生涯と業績には多くの修正が加えられました。また、平成18年の南方熊楠顕彰館の開館に伴い、一般の研究者が資料にアクセスすることが容易になり、資

料を利用した論文、書籍等が増加し、熊楠の研究は飛躍的に進展しています。

南方熊楠ゼミナールは、そうした資料調査の進展をふまえて、熊楠研究の最新の成果と熊楠の遺した業績や実像を広く発信するため、南方熊楠記念館と南方熊楠顕彰会が共催している企画です。熊楠生誕130周年にあたる平成9年に第1回を開催して以来、一般の熊楠ファンから研究者まで幅広く関心を持っていただく機会として、隔年で開催してまいりました。

今年度は熊楠生誕150周年にあたり、国立科学博物館で企画展「南方熊楠—100年早かった智の人—」を開催する運びとなりました。その会場で開催する第11回南方熊楠ゼミナールは、詩人で作家の池澤夏樹先生をお招きし、「一個の人間が宇宙全体を知ることができるか?」と題する講演をしていただきます。

パネルディスカッションでは、今回の展示を担当した研究者により、近年の研究の進展をふまえて、「南方熊楠は何をしたかったのか?」について討議していただきます。研究の最前線からの発言により描き出される、現在進行形の南方熊楠像にご期待ください。

## ● 基調講演 ●

### 「一個の人間が宇宙全体を知ることができるか?」

講師：池澤 夏樹 氏(詩人・作家)

南方熊楠はその知的野心の大きさにおいてまず偉人であり、大学などの組織に依らず可能な限り自分だけの力で研究を進めた点でまた偉人であった。大英博物館を利用し尽くし、知人たちとは大いに書簡を交換したけれど、基本姿勢は独学だった。

宇宙は廣大無辺である。細部を見ようとすれば全体は見えず、全体を見ようとすると細部は失われる。熊楠は写真家がレンズを望遠や広角と替えるように活動の種類を切り替えた。粘菌など自然そのものの精密にして歴大な観察、文献の渉猟、仏教的な因果と因縁のマンダラ図などの哲学的思索、を統合してあれだけの成果を得た。

熊野の森は上から見れば樹冠の連なりでしかなく、踏み込めば数メートル四方しか見えない。全容を知るにはその中で生きるしかない。その意味において、彼はこの宇宙に生きた。

#### 【基調講演講師】

### ● 池澤 夏樹

(いけざわ なつき)

詩人。作家。1945年 北海道帯広生まれ。埼玉大学理工学部中退。

1975年から3年ほどギリシアに住む。1988年に発表した『スティル・ライフ』で芥川賞を受賞。その後、沖縄、フランスなどで暮らして、今は札幌在住。

近著に東日本大震災に材を得た『春を恨んだりはない』、『双頭の船』、冒険小説『アトミック・ボックス』、『キトラ・ボックス』などがある。

個人編集の『世界文学全集』全30巻を2013年に完成し、現在は同じく個人編集の『日本文学全集』全30巻が最終段階である。この中の1巻を民俗学に当て、柳田国男、折口信夫、宮本常一と並べて南方熊楠の「神社合祀に関する意見」を収めた。



(copy Kazuhiko Washio)



#### 【総合司会】

### ● 岩崎 仁

(いわさき まさし)

京都工芸繊維大学 環境科学センター 准教授  
専門は画像情報学、環境材料学。  
日本写真学会理事、南方熊楠顕彰会理事。

## ● パネルディスカッション ●

### 「南方熊楠は研究者か? — 科学者技術者展からの11年を振り返る —」

南方熊楠は、森羅万象を探索した「研究者」とされてきましたが、近年の研究では、むしろ広く資料を収集し、蓄積して提供しようとした「情報提供者」として評価されるようになってきました。

2006年の日本の科学者技術者展シリーズ第4回「森羅万象の探求者 南方熊楠」展からの11年を振り返り、その間の研究成果について討議します。



【パネリスト】 ● 細矢 剛  
(ほそや つよし)

国立科学博物館 植物研究部  
菌類・藻類研究グループ長 専門は菌類学。



【パネリスト】 ● 安田 忠典  
(やすだ ただのり)

関西大学 人間健康学部 准教授  
専門は体育学(体験学習)、身体文化論。南方熊楠顕彰会常任理事。



【パネリスト】 ● 平川 恵実子  
(ひらかわ えみこ)

四国大学 非常勤講師 専門は日本中世文学。



【コメンテーター】 ● 萩原 博光  
(はぎわら ひろみつ)

国立科学博物館 名誉研究員  
国立科学博物館在職中の専門は微生物分類学。



【コーディネーター】 ● 田村 義也  
(たむら よしや)

成城大学 非常勤講師  
専攻は比較文学比較文化(特に近代日本美術史・文化史)。南方熊楠顕彰会学術部長、南方熊楠研究会運営委員。



会場：国立科学博物館 日本館2階講堂